



▲やなせたかし(本名:柳瀬 嵩)

1919年2月6日、高知県在所村(現・香美市香北町)出身の両親の元に誕生しました。終戦後は、高知新聞社での勤務の後、三越百貨店(宣伝部)に入社し、画家の猪熊弦一郎氏がデザインした包装紙「華ひらく」のレタリング(文字のデザイン)などを手がけました。

漫画家として独立後は、ニッポンビール広告漫画(4コマ)「ビールの王さま」をはじめ、多数の連載漫画を手がけるようになりますが、ストーリー漫画の興隆により、漫画の仕事は徐々に減少していきました。

1960年代にはテレビ・ラジオ番組の構成や舞台美術など、多様な創作活動を依頼されるようになり、業界では「困ったときのやなせさん」と頼られるようになります。その中で、いずみたく作曲、やなせたかし作詞による「手のひらを太陽に」が発表されました。この曲は、その後、多くの作詞を手がけたやなせたかし先生の代表作となっています。

1969年、50歳の時に雑誌『PHP』で「アンパンマン」を発表し、1973年54歳の時には、月刊絵本「キンダーおはなしえほん」に『あんぱんまん』が掲載されました。登場当初は、大人から酷評を受けていたアンパンマンですが、子どもたちの間では少しずつ人気を広がり、1988年には絵本をもとにしたテレビアニメ「それいけ!アンパンマン」が日本テレビ系列で放送されました。また、その登場キャラクター数(1768体)が多いことで、2009年にはギネス世界記録に認定されました。

以後も、精力的な活動を展開していましたが、2010年頃に目が悪くなったことを理由に、引退を考えます。しかし、東日本大震災を機に引退を撤回し、被災地に送るポスター制作など多数の支援を行いました。

2013年10月13日、94歳で永眠され、「人生は喜ばせごっこ」という自身の言葉のとおり、「アンパンマン」をはじめとする多くの創作活動、そして自身の人生を通し、その精神を世間に発信し続けました。

郷土が生んだ漫画家やなせたかし先生と妻、暢<sup>のぶ</sup>さんをモデルとした2025年前期の連続テレビ小説「あんぱん」の放送が決定しました。このことをきっかけにして、産業・観光振興や地方創生など、香美市の発展につながるように、市民の皆さんも含めた市全体で、一緒に盛り上げていきましょう!

漫画家や絵本作家、詩人、そしてエンターテイナーなど、多岐にわたって活躍をされたやなせ先生。この特集では、多くの功績を残すとともに、自身の精神を体現し続けたやなせ先生に焦点を当て、その生涯を振り返ります。



▲父・柳瀬清と母・登喜子の長男として生まれる(0歳)



▲東京田辺製薬入社(21歳)



▲作曲家いずみたく氏との出会い



▲「やなせたかし記念館 詩とメルヘン絵本館」開館(79歳)



特集

やなせたかし先生を想う

やなせ先生の歩み

1919年2月6日生まれ、在所村(現・香美市香北町)出身、高知市・南国市で育つ。高知市立第三小学校に入学。翌年、後免野田尋常小学校に転校。県立城東中学校(現・追手前高校)に入学。東京高等工芸学校工芸図案科(現・千葉大学工学部)に入学。東京田辺製薬宣伝部に入社。徴兵。中国より復員し、高知新聞社に入社。「月刊高知」を編集。高知新聞社を退社し、東京へ。三越百貨店宣伝部に入社。小松暢と結婚。三越を退社し、フリーの漫画家として独立。

『手のひらを太陽に』を作詞(いずみたく作曲)。「トッパンのおはなしえほん」から『やさしいライオン』を出版。雑誌『詩とメルヘン』(サンリオ)を創刊。30年間編集長を務める。フレールベル館の月刊絵本「キンダーおはなしえほん」に『あんぱんまん』掲載。テレビアニメ『それいけ!アンパンマン』が日本テレビ系列で放映開始。日本童謡賞特別賞を受賞。劇場版『それいけ!アンパンマン』第1作公開。『アンパンマン』で日本漫画家協会賞大賞を受賞。勲四等瑞宝章を受章。香北町名誉町民に。香北町に『アンパンマンミュージアム』開館。香北町に『詩とメルヘン絵本館』開館。日本漫画家協会理事長に就任。『それいけ!アンパンマン』が、最もキャラクター数の多いアニメとしてギネス世界記録に認定。高知県の名誉県民第1号に。10月13日逝去。